

日本海国土軸の形成に資する北陸新幹線等の整備について

【担当省庁】国土交通省

京都府・京都市共同提案

敦賀・大阪間について、必要な財源を確保し、大阪までの全線整備を推進していただきたい。

環境アセスメントにおいては、文化財の集積、豊かな地下水脈、広大な原生林といった京都の地勢や、その利用状況に鑑み、自然環境や生活環境の問題等について、慎重な調査と十分な環境保全対策の検討、丁寧な地元説明を実施していただきたい。

建設費の負担に当たっては、受益に応じた負担としていただきたい。
また、府域の施工区間は、長大トンネル、大深度地下工事等、工事費が膨らむと予想されるため、経済性の高いルート選定とコスト縮減を実現するとともに、貸付料の見直し、財政支援の拡充のために必要な予算の確保、等により地方負担を軽減していただきたい。

整備効果をより拡大するため、関西文化学術研究都市とのアクセス路線となるJR片町線(松井山手～木津)の複線化等、速達性の向上が実現するよう協力していただきたい。

国の「幹線鉄道ネットワーク等のあり方に関する調査」を確実に実施するとともに、日本海国土軸形成に資する舞鶴を経て日本海に至る山陰新幹線を含めた北部地域の広域幹線鉄道のあり方が検討されるよう、適切に対応していただきたい。

【現状・課題等】

- ・国土の総合的な発展を目指し、東京一極集中に歯止めをかけ、近畿・西日本の経済の活性化を図るためには、敦賀・大阪間の早期整備が必要であり、その実現には、安定的な財源の確保が必要
- ・北陸方面との旅客流動は、大阪・中京方面との割合が高く、また、兵庫県等西日本方面への流動も多く、敦賀・大阪間の受益は、沿線地域にとどまらず、広範囲に及ぶ。
- ・一方、京都府域を通る区間が長く、大深度地下工事等、難工事が想定され、工事費が大きくなり、京都府においては、受益と負担との大幅な不均衡が生じることも予測される。
- ・このため、コスト縮減、貸付料の見直し、財政支援の拡充など、既定の負担割合の変更も含め、受益に応じた負担とするための対応が必要

